

令和 8 年度 霧島市歯科保健専門委員会 会議要旨

開催日時	令和 8 年 8 月 3 日（月） 19:30～20:30		
開催場所	霧島市役所 別館 4 階 中会議室		
出席委員	君野委員長、岩切委員、餅原委員、佐々木委員、有村委員、濱田委員 植木委員、上村委員、福田委員、神田委員、黒木委員、迫田委員		
事務局	【健康増進課】野村課長、坂口主幹兼保健管理グループ長、後野主事 大田主幹兼成人保健予防グループ長、 小島成人保健予防グループサブリーダー 【母子保健課】上小園課長、木原母子保健第 1 グループ長、中見管理グループ長、上村技師 【長寿介護課】渡邊長寿福祉グループサブリーダー 【学校教育課】有馬主幹兼安全・保健体育グループ長		
公開・一部非公開又は非公開の別		公開	傍聴人数
			0 人
議事 （１）「健康きりしま 21(第 4 次)」計画 第 4 章 分野別の具体的な取組【歯・口腔の健康分野】について （２）その他			
協議結果等の概要 委 ：委員 事 ：事務局			
（１）「健康きりしま 21(第 4 次)」計画 第 4 章 分野別の具体的な取組【歯・口腔の健康分野】について ⇒ 事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。			
【フッ化物洗口事業について】			
委：小学校のフッ化物洗口は、保育園からの継続でスムーズに実施できている。 資料の中に、中学校のフッ化物洗口事業をどれくらいやっているかという資料がなかったが、中学校でフッ化物洗口を実施しているところが何校あるか、あるいは何％あるかを教えていただきたい			
事：霧島市内で、実施しているのは小学校のみで、中学校では、まだ 1 校も実施していない状況です。			
【歯周病検診について】			
委：令和 7 年度から 20 歳からの歯周病検診をスタートして、令和 8 年度は、25 歳を追加されたということで、丁寧な取り組みありがとうございます。 20 代 30 代 40 代と働く世代の歯周病検診の受診率については、なかなかこの地域も苦慮されているところだが、霧島市では、この働く世代の受診率向上について、何か取り組みや工夫される計画はありますか。			
事：受診率向上については、今年度から親しみやすい名称に変更したことと、広報でも随時お知らせをしていきたいと考えています。実施期間についても、昨年度は、8			

月から11月末までだったが、若い方が、お正月に帰省したときなどにも受診できるように1月末までに実施期間を延長して、少しでも受診率が上がればと考えています。

委：わかりやすく親しみやすいネーミングということで、とても良い取り組みだと感じています。

委：若い世代の歯周病検診の受診率向上には、従来の郵送通知だけでなく、SNSとかLINEとかそういったものを活用して周知していくのも有効ではないかと考えています。そういったものも検討されると良いと思います。

事：SNSにつきましては、すでに周知に活用しており、今後も母子保健課のアプリ、保健センターのInstagram、霧島市防災・行政ナビのアプリを活用しようと考えています。

【お口元気歯ッピー健診について】

委：資料15ページの説明で、お口元気歯ッピー健診の受診者は、比較的にデンタル意識が高い方が受診されて、その方の中では、かかりつけ歯科医を持っている方が多いという説明だったと思います。実際に、現場でもそのように理解をするんですが、要は受診しない方をいかに受診させるかということで、長寿健診の受診率は40%前後で、お口元気歯ッピー健診が15%なので、この格差をどう是正していくか。広域連合でもいろいろとやっていると思いますが、霧島市で具体的な方策があれば教えていただきたい。

事：長寿健診の受診率は、40%を超えているのに、お口元気歯ッピー健診については、15%～13%という状況になっています。令和7年度の長寿健診結果に口腔関係のチラシを同封したが、このチラシを入れた時は、少しだけだが、受診率が伸びるという傾向があるところです。このチラシは、栄養、フレイル予防、口腔を毎年交代で入れています。

どのようにしたら、チラシが皆さんの目に留まるかというところを、自分達も少し勉強をしながら考えて作成していきたいと思います。また、地域の広場の元気一番講座でも、口腔検診があるということを普及啓発しているところです。そういう機会をとらえて普及をしていきたいと考えているところです。

【フッ化物洗口事業について】

委：フッ化物洗口について、現場で運営されている先生方の苦労もあると思います。一方で、う蝕予防の有効性というのも多く報告されているわけであります。霧島市内の小学校において100%全校で実施されているが、実際、その内の児童は何人くらい参加されているのか、参加率の推移、学校毎の状況等、資料等がありましたら教えていただけたらと思います。

事：小学校の実施率ですが、各小学校の実施率を把握はしていますが、公表はしていないところです。ただ、学校によって大分差があるという状況にはなっています。細

かい数字の方をお伝えできなくて申し訳ありませんが、これで回答とさせていただきます。

【地域プラン支援会議について】

委：14 ページの地域プラン支援会議について、モデルケースがあって、かかりつけの先生がいたら声をかける段取りだったと思うが、11 ケースで歯科医師の参加は、1 ケースだったようですが、かかりつけ医がいなかったのか、それとも出席してもらえなかったのか教えてください。

事：地域プラン支援会議については、令和 7 年度は、グループホームの方を対象にさせていただきました。その中で、かかりつけの歯科医師がいる方も結構いたんですが、令和 7 年度から昼間の開催で、先生方の診療時間内ということもあり、なかなか出席が難しい現状でした。時間を作っていただいて出席していただいた先生には、助言をいただき参考になりました。

(2) その他

事：健康きりしま 21 の次期計画である第 5 次計画について、今年度、アンケート調査をして次年度の計画の検討、策定を行う予定となっております。
アンケート内容について意見があればお願いします。

委：アンケートについて、いつも少し気になっていた点で、個別目標 3 の咀嚼良好者の割合が、霧島市は低いところがあり、歯周病検診に口腔機能の評価や予防啓発を今まで提案させていただいていたが、どうしてもこのデータを見るにつけて、国や県との比較をやっていくことになってくるかと思っている。霧島市の場合は、咀嚼良好者の割合は、歯周病検診をもとに抽出しています。おそらく国や県は無作為抽出でしていると思うが、もしかしたらデータに偏りがあるのかというところもあり、せっかく第 5 次計画に向けて、無作為抽出のアンケートをされるのであれば、県とか国がされている「何でも良く噛んで食べられますか」というアンケート項目も加えていただいて、第 5 次計画策定前の結果がどうなのか、今までの歯周病検診の結果との比較もできればいいかと思います。

事：20 歳以降のアンケートに「何でも良く噛んで食べられますか」という質問を追加することで検討したいと思います。

事：歯と歯茎の間を磨くようにしているという質問がありますが、歯周ポケットの関係で最近、あまり推奨しないということを聞いたのですが、質問として入れてもいいでしょうか。

委：歯周病の歯みがきの仕方というのがあり、歯茎と基盤の部分、ポケットに少し毛先が入るような磨き方をするんですが、意識的にそれがされているのであれば、質問に入れた方がよいと思います。

事：問題なければ、質問に入りたいと思います。

委：どのくらいの割合で各学校のフッ化物洗口をしているか、オープンにしないという理由がありますか。フッ化物洗口をやる上で、自分もたくさん勉強会に参加したが、かなり紆余曲折あって、特に教員の方から、それは本当に大丈夫かということが、かなりあったと思う。その中でようやく始まって成果も出しているところだと思うが、それに対して、学校は全部やっているんだけど、パーセントは分かりませんでは良くないという気がする。

事：フッ化物洗口を実施している学校の小学生の数や実施している小学生の数は把握しているが、今は公に公表していない。公にしない理由は、実際には、学校によって格差がある。教育委員会が奨めている事業なので、その学校の先生が推奨しないとか、そういうわけではないですが、変なところで数字だけが独り歩きして、各学校の印象がということも加味して公表していません。先生方も今、業務量がものすごく多く、教職員の働き方改革ということもあります。教育委員会として推奨していくところではありますが、先生方の協力もいただきながら、今のところは実施しているところです。学校単位で実施率が悪いところがあったり、良いところがあったりということについて、実施率の悪いところの先生に、推奨してくれと押し付けるところもできないところです。

委：学校現場にいるので、付け加えますが、学校もメリットやこういうところに気を付けていきますなど保護者にお話しはするんですけども、実際に保護者の価値感も多様化しており、無理に「されないんですか」と深掘りはできないところがあります。「メリットもあるし、デメリットとして、万が一ですけど」って形で意思確認をします。「私たち学校現場として、ちゃんと保護者の意向を聞いて実施します」と説明させていただいているところです。私が説明するのではなく、管理職である学校長、教頭の方で説明しています。一応、年度初めにそれを確認することになっています。

委：先ほどのアンケートについて質問ですが、児童生徒への質問は10歳からとなっています。学校では4年生からということになりますが、学校では、歯周病ではなく歯肉炎という言葉が授業の中で使うことが多い。腫れている、色が赤黒くしている、触ると血がでる、こういうのを歯肉炎と言うが、1週間くらいきちっと歯磨きをしたら治るんだよと授業を展開している。高校生まで含んでいるので、質問が歯周病が良いか歯肉炎が良いか個人的に判断が難しい。今年の小学生歯みがき大会では、歯肉炎に統一してやっている。これから先、生涯に向けて歯周病ということをしっかり認識するということであれば、歯周病が良いですが教えていただけたらと思います。

委：定義づけすると、歯周病の周は、歯の周囲組織にあたるので、歯肉とかその骨に炎症が起こっている病態というのが、今、私たちの認識です。歯周病、歯周炎といえ、歯の周囲がやられている。学童期にはそういうことはない、骨が溶けるほどひどいというのはめったにないですから、若年性の歯周炎というのは実際にあるけどめったにないです。厳密には、歯周病というと、その中で歯肉炎と歯周炎があって、歯肉炎はあくまで歯肉に限られたものですから、ブラッシングを頑張るとそ

この出血を一時的にはするんですけど、歯垢をしっかり除去していくと、歯茎に限られた炎症は落ち着いていきます。歯周炎になった場合は、骨にダメージを受けていたり、歯の周囲組織がダメージを受けているので、なかなか治癒するという概念がないです。もう溶けてしまっているの、溶けた骨が回復するケースもあるんですが、基本的には骨が溶けてしまっているの、治りづらいという認識です。それに対して、再生療法を行うとかアプローチはあるんですが、18歳くらいまでの場合は、歯周炎というのは、めったにないという認識なので、言葉の使い方は難しいですが、歯肉炎がメインの取り組みになると思います。

事：アンケートは、歯肉炎にした方が良いでしょうか

委：病気の名前としては、歯周病であって、症状の名前としては、歯肉炎とか歯周炎というものがあるので、歯周病というのが、自分と関係ないって思うようなことや、学校の先生が歯肉炎というので指導されているようであれば、歯周病イコール歯肉炎というのもおかしいので、子ども達がわかりにくいのであれば、歯周病（歯肉炎など）としてはいかがでしょうか。

委：歯周病の説明、注釈を下にいらしてはどうでしょうか。それと歯と歯茎の間という表現は、歯と歯茎の境目という表現に、デリケートな表現なので変えた方が良いでしょうか。

事：それでは、歯と歯茎の間は、歯と歯茎の境目に変えて、歯周病の質問の意図としては、歯周病というのを知って欲しいという意図もあります。歯周病（歯肉炎など）とし歯周病の注釈も入れるようにするということにしたいと思います。

委：最後に、この委員会自体は、歯科保健の公衆衛生に関係するお話だと思うんですけど、歯科医療の提供体制整備ということもちょっとだけコメントさせてもらってよろしいですか。

今日の新聞でも障害者施設に入れない待機の方がいらっしゃると書いてありました。霧島管内でも障害施設がいくつかあると思いますが、その中の歯科保健の状況はどうなのかいろんなことが聞こえてきて、施設でどういう風な状態で、口腔ケア状態はどうなのかというのを、歯科医だけではなかなか把握できないので、ぜひ行政の方とも一緒になって、施設内の状態把握をさせていただきたい。それから、障害者歯科診療というのはなかなか難しく、今やっと霧島市内でも全身麻酔で対応できる施設がありますが、その医療機関が個人なので、このまま継続してくれるかどうか分かりません。経営状態においては、これを継続するために霧島市行政としても何らかの補助対応できないかなということの要望を一個人として持ってます。

今日はこの公衆衛生のお話でできないんですけど、どこかでまたこういう協議の場はいただきたい。

もう一点。全身麻酔と言え、医療センターに歯科口腔ができたが、ユニット一台でなかなか回転性が悪いのと入院対応ができない。全身麻酔でしか治療できないと

いう実情があつて、やっぱり市外に行かないといけないということが聞こえてきます。

ですから、予算等大変ハードルが高いとは聞いてますが、少しでも一歩ずつでも進められるように、そういった協議の場を設けていただきたいと思います。

事：ただいまの意見については、庁内関係課と検討してまいります。

会議資料

【配布資料】

- 会次第
- 令和８年度霧島市歯科保健専門委員会委員名簿
- 霧島市健康・生きがいつくり推進における各種委員会の設置に関する要綱
- 霧島市附属機関等の会議の公開に関する指針
- 健康・生きがいつくり推進の組織体制
- 健康きりしま 21(第４次)
- 健康きりしま 21(第４次)【歯・口腔分野】について 資料